大豆情報 No.４

令和７年（2025年）９月25日
湖北農業農村振興事務所農産普及課
（湖北農業普及指導センター）

ミナミアオカメムシの発生状況と防除対策について

湖北管内ではダイズの子実肥大期を迎えています。現在のところ、カメムシ類の薬剤防除が２回以上実施されているほ場では、ミナミアオカメムシの発生はほとんど認められません。その一方で、防除未実施や１回防除のほ場では、ミナミアオカメムシ幼虫の多発が見られます（写真）。以下を参考に発生状況をよく確認し、防除対策を徹底しましょう。

写真： AおよびB:湖北管内で9月18日に撮影、CおよびD:滋賀県病害虫防除所提供

（１）カメムシ類による大豆の被害

ミナミアオカメムシを含むカメムシ類により莢の伸長期に加害された場合は莢が落下し、子実肥大期に加害された場合は、子実が肥大停止または変形します（写真）。また、加害が激しい場合は、緑色のまま落葉せず、「青立ち」といった状態になります。

（２）防除対策

１）ミナミアオカメムシが多いほ場では、若莢期と子実肥大期の２回防除を確実に実施します。さらに、農薬散布後もほ場内のダイズカメムシ類の密度が高い場合は、追加防除を行います。

２）成虫は主に着莢部に生息するため、できるだけ薬液が着莢部に付着するように散布します。

（3）農薬の使用にあたって

１)薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守してください。

２）農薬を散布するときは、周辺住民やほ場周辺の農作物等に影響が出ないよう、農薬の飛散防止対策を行いましょう。

３）学校、保育所、病院、公園、保健所等の公共施設、および住宅地に近接する場所で農薬を散布するときは、農薬の飛散により周辺住民に健康被害を及ぼすことがないよう、農薬の飛散防止対策を行い、事前に農薬を散布する日時、使用農薬の種類等を記した書面や看板等により周知を行い、周辺住民や施設利用者等に十分配慮しましょう。